

小学校 第3学年国語科での実践事例

単元名「ファンタジーを読んでお気に入りの登場人物やしかけを紹介しよう！」

高松市立新番丁小学校 教諭 荒井 直子

アクティブラーニングの視点からの工夫

- 初発の感想や既習事項をもとに、児童と話し合っ一単位時間ごとの学習計画を立てることで、見通しや目的意識、必要感を持って主体的に学習に取り組めるようにする。
- 「家庭学習での一人読み→授業での自分の考えをもつ時間→付せん紙とホワイトボードを使って分類・操作するグループ交流→みんなで考えをまとめる全体交流」という学習スタイルを繰り返すこと、及びそれぞれの段階での学び合いの目的を明確にして支援を工夫することで深い学びが得られるようにする。

1 学習指導過程（本時6/10）

○本時の目標

物語で起きた出来事全体を振り返り、物語のしかけについて考えたことを書くことができる。

学習活動	指導上の留意点
1 本時の学習課題をつかむ。	<p>主・美月さんがウサギだったと分かるように隠されていたヒントは、物語をおもしろくするしかけの1つであったことを振り返り、しかけについて考えたいという意欲を高める。</p> <p>美月さんがウサギだと分かるヒントを見つけ、物語のしかけについて考えよう。</p>
2 物語のしかけを見つけ、自分の考えをノートに書く。	<p>深・しかけに気付きやすくするために、事前にウサギの特徴について話し合っておく。</p> <p>主・作業の手順を明らかにし、全員が作業に取り組めるようにする。</p> <p>① 文中からしかけとなる言葉を見つけて青丸で囲む。 ② 青い付せん紙に言葉を抜き出して書き、上段に貼る。 ③ 赤い付せん紙に理由を書き、下段に貼る。</p>
3 友だちと交流する。 (1) グループ交流	<p>対・相手に分かりやすく説明するために、「なぜなら」を使って理由や根拠を明らかにするよう約束しておく。(話形の揭示)</p> <p>対・本当にしかけになっているのか、自分がまだ気付いていないしかけはないかという視点でホワイトボードに付箋紙を分類しながら話し合うことで考えを深められるようにする。</p>
(2) 全体交流	<p>主・全体交流では、他のグループと同じ意見は省いて発表することで、友だちの発表をよく聞き、自分達の考えに誇りをもって発表できるようにする。</p>
4 しかけの全体を見て気付いたことを話し合う。	<p>深・教室に教材文を拡大掲示しておき、しかけの言葉に印をつけていくことで、教材文全体にしかけがらちりばめられていることや作者の工夫に自然と気付けるようにする。</p>
5 振り返りをする。	<p>美月さんがウサギだと分かるように、たくさんのヒントがいろんな場面に散りばめられていたんだね。お話がおもしろくなるようにしかけをつかった作者はすごいな。</p>

2 実践後の児童の変容

- 学習計画を児童と一緒に立てることで、「今日は何のために何を学習するのか」が分かり、主体的に学習に取り組む児童が増えた。
- 個人→グループ→全体の学習スタイルを繰り返すことで、「本当に?」「なんでそうなん?」「分からんなあ。どういう意味?」「私もそう思うわ。」と疑問をぶつけ納得し合える交流が自然とできるようになってきた。また、交流を通してあいまいだった自分の考えがだんだんはっきりしてくる場面が多く見られた。

3 本実践での課題

- 全体交流では、グループで役割分担（話す人、指し示す人、教材文に印をつける人）をして発表することによりどの児童も活躍することができたが、何度も繰り返し慣れることや内容を厳選することで、時間短縮を図ることが課題である。